

## 6月15日（月）

おはようございます。今日は始業式です。

だいぶ遅れた新学年、新学期のスタートとなりましたが、今日は弘法大師のお誕生日でありますので、とても良い日にスタートできたというふうに考えましょう。これからは平常の時間帯で学校を運営して参りたいと考えております。

さて、一時期盛んに取り沙汰された9月入学のことですが、現在のところでは、今年度と来年度の導入は見送ることになりました。政府の9月入学検討ワーキングチームの会議において、最も重要な意見を述べられたのは、慶應義塾大学総合政策学部教授の中室牧子先生であります。

中室先生は、まず9月進学には賛成であるとした上で、しかし、今回は時期を半年遅らせた9月入学になる点が問題になる。4月入学を9月入学に変更する場合、本来は半年早めるものだが、今回は半年遅らせることになるので、当該学年は通常の1.4倍以上の人数になってしまうからだ。コロナで十分な学力定着が図られていない上に、1.4倍の大人数で大学の授業を進めることへのリスクヘッジがなされているのかという意見を述べられ、喫緊の課題はこの空白の2ヶ月間をフォローすることに全力を注ぐべきではないかと提言され、それがワーキングチームにおいて9月入学を見送る決定的な理由になったのではないかと聞いております。

ところで私は、中室先生とは先生が准教授の時代から三回ほどお話をさせていただく機会がありました。先生とのお話のなかで、特に印象に残っていることがあり、よく生徒募集の説明会でもお話させてもらっています。それはこういうことです。中室先生のご専門は「教育経済学」という学問です。「教育学」ではなく「教育経済学」。これは俗な言い方をしますと、「どのようにすれば生涯賃金が高くなるか、どのような教育を受ければ賃金が高くなるのか」ということを研究する学問です。「アメリカは〈Ivy League〉（8つの名門大学）を出ているかどうかで、生涯賃金に大きな差が生じるが、日本においては、アメリカのように特定の大学を卒業していることで生涯賃金に有意な差をみつけることができなかった」とおっしゃいます。しかし、日本において、明らかに生涯賃金を左右するものがある、それは「躰」なのだそうです。

躰ができていない家の子どもは生涯賃金が高くなり、躰ができていない家の子どもは、たとえ一流大学を卒業してしても、結果として生涯賃金は低くなるということでありました。なるほどそうかと思いつつも、私としては少し疑問を抱く形でこの分析結果を受け止め

ています。現代の情報化社会の進展につれて、学校や保護者のチェックなしに様々な形で有害な情報が生徒諸君に届いてしまう現状を鑑みると、そういう情報に左右されることなく、諸君が自分で自分をしっかり保つことがとても大事ではないかと考えるからです。つまり、自分を自律的にコントロールできるかということがとても大事ではないかと考えるのです。

コロナの感染状況が落ち着いたので、今のところ対面授業が可能になりましたが、第2波、第3波が襲来することを前提に、学校も様々に工夫を凝らしてよい学習内容を提供するためのアイデアを出し合っております。しかしながら諸君等の方はどうでしょうか。

多くのお寺では人里離れた場所にあります。このことは日本に限ったことではありません。インドでも中国でもチベットにおいても同様です。その理由は、人里近くにお寺があったとしても、熟達した修行者であれば、さまざまな煩惱や欲望に十分に対応できるでしょうが、初心者の行者はいろいろな誘惑に負けてしまいなかなか対応できないからです。例えば、ダライ・ラマ法王は、日本の宗教学者、山折哲雄に「あなたは怒ることはありますか」と質問されて、「私も怒りますよ。むしろ気が短いところがある」と答えてお笑いになった。しかしそのあと、「しかし、心の奥底は風が吹いていない水面のように一定ですよ」とおっしゃいました。要するに、腹立たしいことがあったとしても、すぐ元に戻って自分の情緒を保つことができるというお話であります。思い出しては腹を立てて夜も寝られないというわけではないということです。自分の怒りに気づき、だめだと思ってすぐに戻る。そういうふうに、行を熟達した人であれば、さまざまな煩惱を掻き立てるもの、欲望を沸き立たせるものにも対応ができるでしょう。しかし初心者の行者はそういうわけにはいきません。ですから、近くに欲望を沸き立たせるようなものがあって、それにどう対処するかというよりも、まずそういう場所から離れることが修行の第一歩であるのです。こころや気持ちを煩わせない状態にすることが大切であるため、予め人里離れた場所にお寺を建てることになるというお話です。

勉強に関して言いますと、諸君はいわば初心者ではないでしょうか。したがって、CLASSYやGoogleクラスルームでの勉強が中心となった場合、当然その場所はくつろぐための部屋ではなく、戦場そのもの、教室そのもの、勉強するための部屋そのものでなくてはなりません。そこに自分の欲望を沸き立たせるような品々を置いておけば、スタートとして失敗ではないでしょうか。ですから、まずは自分の部屋にある誘惑されるようなものを部屋の外へと出すこと

から始めなくてはなりません。

棋士の藤井聡太 7 段は 17 歳ですが、外に出られなかった 2 ヶ月を過ごしてどうでしたかとインタビューを受けた際に、「自分にとってこの 2 ヶ月は、自分の将棋としっかり向き合うことができた」と答えました。諸君はどうでしたか。「自分の勉強としっかり向き合えた」と言えますか。そう言える生徒はとても僅かなのではないかと思います。ほとんどの生徒が、そうではなかったと答えるのではないのでしょうか。

これからコロナウィルスの第 2 波、第 3 波が来て、学校が休みになる可能性も十分に考えられます。そのときはまず、自分の部屋にあるものをしっかりと整理することから始めましょう。ついつい見たり触ったりしてしまう勉強の妨げになるようなものは、まず部屋の外に出しましょう。勉強に集中できる部屋を自分で作っていくこと、つまり自分で自分を律することがスタートとしてとても大事だと思います。

私の話に「なるほど」と思えるところがあれば、諸君が大きく成長する年のスタートとして役立ててもらいたいと思います。

以上で終わります。

学校長